

遠野市地球温暖化対策実行計画
平成 24 年度実績報告

平成 25 年 7 月

1 遠野市地球温暖化対策実行計画について

(1) 概要

本計画は地球温暖化の防止を図るため、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、「ふるさと遠野の環境を守り育てる基本条例」の趣旨を踏まえて、平成19年3月に策定し、同年4月から取り組みを進めてきました。

平成24年3月、計画期間が満了したことに伴い、平成24年度以降も温室効果ガス排出削減に努めていくため、「第二次地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

しかし、東日本大震災後、対象施設の変動、組織再編等により、基準年から大きく変化していることから本計画の見直しを行う必要があります。

(2) 計画の期間

平成24年度から平成27年度までの4年間

(遠野市総合計画後期基本計画及び第2次遠野市環境基本計画の最終年度に合わせる。)

(3) 計画の目標

平成27年度の二酸化炭素の排出量を基準年度と比較し4%削減(毎年度1%削減)

東日本大震災後、対象施設の変動等のほか、二酸化炭素の排出係数が高くなっていることから、目標の実現は難しい状況です。

(4) 対象とする事務事業の範囲

原則として本市の全ての事務及び事業の実施に伴う活動とします。ただし、市から委託されて施設管理等の業務を行っている委託業者に対しては協力を求めることとします。

(5) 対象とする温室効果ガス

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボンの4種類とします。

このうち、温室効果ガス排出量割合の95%を占める二酸化炭素の削減に直接貢献する項目について、数値目標を定めています。

(6) 取り組み項目

温室効果ガス削減のための数値目標を掲げた項目を重点項目とします。

- ・電気の使用量の削減
- ・燃料設備における燃料使用量の削減
- ・公用車燃料使用量の削減

※その他、省資源に関する取り組みとして、事務用紙購入量の削減や、水道使用量の削減、ごみの分別、リサイクルによる廃棄物の削減に取り組みます。

2 温室効果ガス(二酸化炭素)総排出量、活動量実績

平成 24 年度二酸化炭素排出量 7,999,356.6 kg-co2

排出量の構成 ----- 電気使用量 73.0%
 設備用燃料 23.5% (A重油、灯油、LPガス)
 公用車燃料 3.5% (ガソリン、軽油)

※ 平成 23 年度に対して、二酸化炭素の排出量は電気が 36.9%、ガソリンが 12.7%、軽油が 6.4%上回る排出量となりました。

○ 温室効果ガス排出状況

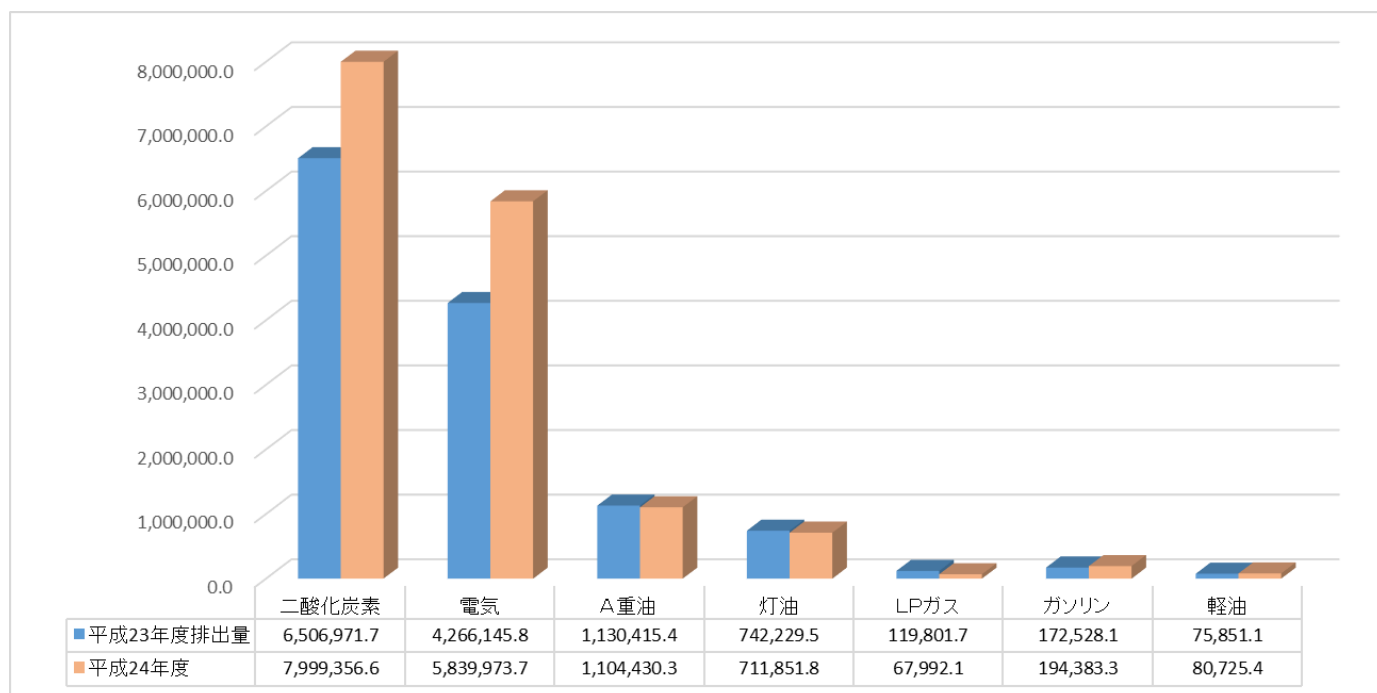
単位 kg-co2

項目		平成 22 年度排出量 (基準年度)	平成 23 年度排出量	平成 24 年度	
				排出量	23 年度比増減率
二酸化炭素	二酸化炭素	7,631,570.1	6,506,971.7	7,999,356.6	22.9%
電気使用量の削減	電気	5,178,640.9	4,266,145.8	5,839,973.7	36.9%
燃料設備における燃料使用量の削減	A重油	1,480,589.5	1,130,415.4	1,104,430.3	△2.3%
	灯油	681,671.6	742,229.5	711,851.8	△4.1%
	LPガス	16,929.6	119,801.7	67,992.1	△43.2%
公用車等燃料使用量の削減	ガソリン	183,005.0	172,528.1	194,383.3	12.7%
	軽油	90,733.5	75,851.1	80,725.4	6.4%

※1 電気の二酸化炭素排出係数は毎年変更されます。

※2 二酸化炭素排出量平成 27 年度の目標値 7,326,307.3 kg-co2 (基準年と比較して4%削減)

○ エネルギー別温室効果ガス排出量



(1) 電気の使用量 前年度比 7.4%増

総使用量 平成 24 年度 10,676,368.7 kwh
 平成 23 年度 9,944,395.8 kwh

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(kwh)		増減率	全体割合	電気使用量増減の要因など
増	総合防災センター (消防保安施設課)	H24	482,786.0	649.9%	4.5%	・庁舎新設(面積約6倍の増) ・ロードヒーティングによる使用量の増 ・サーバーの移転による増
		H23	64,376.0			
減	市役所西館 (管理情報担当)	H24	183,032.0	△38.2%	1.7%	・23年度は4～6月にかけて後方支援のため、夜通し電気を使用したため ・サーバーの移転による減
		H23	295,950.0			

○使用量の多い施設 (上位 5 施設)

	施設名等	使用量(kwh)		増減率	全体割合	電気使用量増減の要因など
1	清養園 クリーンセンター	H24	2,949,298.0	△1.4%	27.6%	23年度はボランティア等の受け入れで入浴時間を延長
		H23	2,991,916.0			
2	水道事務所 下水道担当	H24	1,346,906.3	1.9%	12.6%	震災後の避難場所及びボランティアセンターの活動拠点として浄化センターを使用したことによる増
		H23	1,321,457.1			
3	水道事務所 上水道担当	H24	1,151,127.0	△2.5%	10.8%	災害関係の業務量の減
		H23	1,181,058.0			
4	市民センター (市民協働課)	H24	830,680.0	2.5%	7.8%	会館使用件数の増 23年度 4,426 件 24年度 4,662 件
		H23	810,170.0			
5	総合防災センター (消防保安施設課)	H24	482,786.0	649.9%	4.5%	・庁舎新設(面積比4倍の増) ・ロードヒーティングによる使用量の増 ・サーバーの移転による増
		H23	64,376.0			

○ 電気の使用量について

前年度比 7.4%の増加 (731,972.9 kwh) となりました。

主な要因として新たに冷暖房設備を設置した施設が多く、これにより使用量が増加したことが挙げられます。また、新たに施設が増えたことにより、全体的な電気の使用量が増えたことも要因となります。

前年度よりも使用電力量が増加した施設は、全 56 施設中 36 施設であり、今後もより一層の節電が望まれます。

(2) A重油の使用量 前年度比 2.3%減

総使用量 平成 24 年度 407,594.5 ℓ
平成 23 年度 417,184.4 ℓ

※A重油は購入した量を使用量としています。

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	A重油使用量増減の要因など
増	宮守総合支所 (地域振興課)	H24	20,000.0	81.8%	4.9%	24年度はボイラーを1年通して通常使用したことによる増 (23年度は一時期故障)
		H23	11,000.0			
減	青笹中学校	H24	8,700.0	△31.0%	2.1%	学校増設による工事のため、 使用量の減
		H23	12,600.0			

○使用量の多い施設（上位5施設）

	施設名等	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	A重油使用量増減の要因など
1	市民センター (市民協働課)	H24	132,000.0	△7.0%	32.4%	・プール使用中止による使用量の減 (24年度8月から中止) ・節約に努めた
		H23	142,000.0			
2	遠野給食センター	H24	73,600.0	△0.5%	18.1%	給食の供給食数の減 (H23:2090食 H24:2028食)
		H23	74,000.0			
3	健康福祉の里 (福祉課)	H24	58,000.0	△3.3%	14.2%	毎日の温度管理を徹底し、節約に努めた。
		H23	60,000.0			
4	清養園 クリーンセンター	H24	30,000.0	0.0%	7.4%	焼却炉の昇温、残渣の完全焼却のために使用 前年度と同様の使用になった
		H23	30,000.0			
5	とびあ庁舎	H24	22,500.0	△6.3%	5.5%	温度管理の徹底による使用量の減
		H23	24,000.0			

○ A重油の使用量について

前年度比が2.3%減少（△9,589.9 ℓ）となりました。

A重油を使用する15施設中10施設が減少、3施設が増加、増減なしが2施設となっています。増加となった施設のひとは、ボランティア団体の活動拠点となったため増えており、A重油は長期的に見て減少傾向にあると思われま。

利用団体への暖房節約の呼びかけを実施した施設もあり、積極的に節約に取り組んでいる結果が出ています。

(3) 灯油の使用量 前年度比 4.1%減

総使用量 平成 24 年度 285,943.6 ℓ
平成 23 年度 298,146.0 ℓ

※灯油は購入した量を使用量としています。

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	灯油使用量増減の要因など
増	青笹中学校	H24	2,492.0	122.1%	0.9%	中学校再編準備による使用量の増
		H23	1,122.0			
減	健康福祉の里 (福祉課)	H24	0.0	△100.0%	0.0%	24年度は窓口にエアコンが入ったため、ストーブを使用しなかった
		H23	298.0			
	水道事務所 下水道担当	H24	0.0	△100.0%	0.0%	震災の関係でだるまストーブを使用した、24年度は使用しなかった
		H23	20.0			

○使用量の多い施設（上位5施設）

	施設名等	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	灯油使用量増減の要因など
1	清養園 クリーンセンター	H24	35,581.0	16.9%	12.4%	・ファンヒーターを新たに3台新設 ・余熱ボイラーの稼働時間増(焼却炉の点検を2回実施)
		H23	30,436.0			
2	図書館・博物館 (文化課)	H24	24,880.0	△14.9%	8.7%	節約に心がけたための減
		H23	29,235.0			
3	斎場 (環境課)	H24	21,550.0	3.8%	7.5%	火葬件数 H24:482件 ペット:98件 H23:582件 ペット:71件
		H23	20,764.0			
4	遠野北小学校	H24	20,060.0	△6.5%	7.0%	節約による減
		H23	21,444.0			
5	遠野中学校	H24	18,929.0	36.2%	6.6%	ボイラー故障によりFFファンヒーター使用による増
		H23	13,897.0			

○ 灯油の使用量について

暖房設備を灯油からエアコンやペレットボイラーに切り替えた施設(6施設)があり、4.1%減少(△12,202.4 ℓ)となりました。

また、灯油を使用する施設54施設中31施設が減少となりました。各課が積極的に節約に取り組んだ結果と思われます。

(4) LPガスの使用量 前年度比 43.2%減

総使用量 平成 24 年度 11,393.2 m³

平成 23 年度 20,074.7 m³

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(m ³)		増減率	全体割合	LPガス使用量増減の要因など
増	遠野まちなか ドキ・土器館	H24	32.1	211.7%	0.3%	平成24年度は1年を通して土器の洗浄が行われ冬場にお湯を使用したため
		H23	10.3			
減	斎場 (環境課)	H24	0.0	△100.0%	0.0%	斎場新設により、ガスの使用が無くなった
		H23	10.4			
	水道事務所 上水道担当	H24	0.0	△100.0%	0.0%	冬期間の凍結を解凍するために使用しているが、24年度はガスボンベの減りが少なかったため新たに購入しなかった
		H23	8.0			

○使用量の多い施設（上位5施設）

	施設名等	使用量(m ³)		増減率	全体割合	LPガス使用量増減の要因など
1	宮守給食センター	H24	4,424.0	3.1%	38.8%	・閉鎖作業による使用量の増 (25年3月31日にセンター閉鎖)
		H23	4,293.0			
2	健康福祉の里 (福祉課)	H24	1,500.0	0.0%	13.2%	給湯器、ふれあいホーム薬研測の給食・おやつ等に使用
		H23	1,500.0			
3	合同庁舎 (環境課)	H24	718.1	4.4%	6.3%	給湯器使用の増
		H23	687.5			
4	遠野給食センター	H24	691.0	△3.7%	6.1%	給食の供給食数の減 (H23:2090食 H24:2028食)
		H23	717.8			
5	遠野まちなか ギャラリー (文化課)	H24	517.4	-	4.5%	ガスエアコンに使用 第3セクターが9月まで運営していたが、10月から市が支払うこととなったため増
		H23	0.0			

○ LPガスの使用量について

地区センター等の東日本大震災の支援対応が減り、43.2%減少（△8,681.5 m³）となっています。LPガスを使用している52施設中26施設が減少となりました。

(5) ガソリンの使用量 前年度比 12.7%増

総使用量 平成 24 年度 83,726.0 ℓ

平成 23 年度 74,312.4 ℓ

※ガソリンは購入した量を使用量としています。

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	ガソリン使用量増減の要因など
増	青笹地区センター	H24	632.5	143.6%	0.8%	軽トラックが新たに配備となり、地区センター及び小中学校において、車両の使用回数の増
		H23	259.7			
減	達曽部小学校	H24	20.0	△50.0%	0.0%	節約に努めた
		H23	40.0			

○ 使用量の多い施設（上位 5 施設）

	施設名等	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	ガソリン使用量増減の要因など
1	管理情報担当	H24	20,594.0	△3.8%	24.6%	適正な公用車運行が遂行された
		H23	21,408.8			
2	総合防災センター (消防保安施設課)	H24	8,627.0	102.1%	10.3%	・救急件数及び救急市外搬送の増 ・車両一台の増 救急件数 H23:1,121 件 転院 139 件 H24:1,175 件 転院 165 件
		H23	4,268.0			
3	建設課	H24	6,175.4	75.1%	7.4%	各地区センターに小型の除雪機と運搬用の軽トラックを配備したため増
		H23	3,526.6			
4	水道事務所 上水道担当	H24	4,222.6	△27.3%	5.0%	災害対応業務の減
		H23	5,805.0			
5	長寿課	H24	3,818.9	△17.7%	4.6%	ハイブリッド車及び低燃費車の導入、所管車両の減
		H23	4,639.9			

○ ガソリンの使用量について

ハイブリッド車及び低燃費車の導入を行ったが、公用車の台数が増えた課が多く、12.7%の増加(9,413.6 ℓ)となりました。(公用車両台数 H23:276 台 H24:321 台)

東日本大震災の影響による業務が落ち着いて、ガソリンの使用量が減少した課や施設もあります。しかし、放射線被害対策などの新たな業務により、公用車の使用回数が増えた課もあり、ガソリン増加の要因として挙げられます。

(6) 軽油の使用量 前年度比 6.4%増

総使用量 平成 24 年度 31,228.9 ℓ

平成 23 年度 29,343.2 ℓ

※軽油は購入した量を使用量としています。

○ 前年度比で増減率の高い施設

	施設名	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	軽油使用量増減の要因など
増	総合防災センター (消防保安施設課)	H24	4,411.8	206.2%	14.1%	・災害出動件数の増 H23:16 件 H24:17 件 ・除雪ローダー1台増 ・庁舎新設による、自家発電機用の地下タンクの新設 (2,500ℓ 補充)
		H23	1,441.0			
減	斎場 (環境課)	H24	0.0	△100.0%	0.0%	H24 は自家発電機を使用し なかったため減
		H23	53.0			

○ 使用量の多い施設 (上位 5 施設)

	施設名等	使用量(ℓ)		増減率	全体割合	軽油使用量増減の要因など
1	建設課	H24	9,233.0	△28.6%	29.6%	市で直営の除雪機がなくなっ たため減
		H23	12,936.3			
2	管理情報担当	H24	4,637.0	42.8%	14.8%	マイクロバス使用回数の増
		H23	3,247.1			
3	総合防災センター (消防保安施設課)	H24	4,411.8	206.2%	14.1%	上記のとおり
		H23	1,441.0			
4	清養園 クリーンセンター	H24	4,254.3	3.0%	13.6%	汚染牧草焼却のためローダ ー1 台購入
		H23	4,132.0			
5	文化課	H24	2,971.3	22.4%	9.5%	やまゆり号の使用回数の増
		H23	2,426.5			

○ 軽油の使用量について

軽油の使用量は昨年度と比べ 6.4%増加 (1,885.7 ℓ) となりました。

軽油使用がある施設 18 施設中 5 施設の使用量が増えており、業務の増加が理由となっ
ています。

減少した施設では、東日本大震災による業務が減ったことと、公用車を廃車にしたこと
が挙げられています。

新施設の概要

あすもあ遠野（遠野市まちおこしセンター）

〒028-0522 遠野市新穀町6-1

TEL 0198-62-2456 FAX 0198-62-2356

・施設規模

3階建て（延床面積 1,169.66 m²）

・施設内容

1階 遠野商工会

2階 遠野市産業振興部

3階 会議室・多目的ホール



商工業を中心とした産業振興、まちおこしに加え、市民交流による中心市街地活性化を目的に設置された施設です。

総合防災センター

〒028-0501 遠野市青笹町糠前10-46

TEL 0198-62-2119 FAX 0198-62-2271

・施設規模

2階建て（延床面積 3,195.29 m²）

旧消防庁舎 延床面積 561.10 m²

・施設内容

庁舎棟……………事務室、通信指令室、大会議室、出動準備ホール、緊急車両車庫、消防団室、救急資機材庫、サーバー 等

訓練棟A………消火訓練室、煙体験室、避難訓練室、倉庫、車庫等

訓練棟B………倉庫、救助訓練スペース等

地下……………自家発電機用タンク



文化研究センター

〒028-0523 岩手県遠野市中央通り1-11

TEL 0198-60-2800 FAX 0198-60-1055

・施設規模

2階建て（延床面積 451.44 m²）

・施設内容

遠野市には、『遠野物語』をはじめ、人々の暮らしの中で生まれ受け継がれてきた豊かな文化資源があります。これらの文化資源の調査研究を行い、そして活用し、「永遠の日本のふるさと遠野」を実現することを目的としています。



◇排出係数について

本報告における排出量の算定に用いた排出係数は、「実行計画策定マニュアル及び温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン（平成 23 年度 10 月）」（環境省）の係数を用いています。なお、電気の使用に伴う排出に関わる係数は環境省の定めた各電力会社の実排出係数を用いています。

4 取組状況について

(1) 全庁対象の取組み

職員ポータルやエコオフィス活動ポスターの庁内掲示等を通じて全職員に呼びかけを行ったほか、各課の推進員を通じて周知し、職員一人ひとりの意識の向上及び各課等での取り組みの徹底を図りました。

(2) 課ごとの取組み

各課等から施設別活動量調査票（様式 1-2、1-3、1-4）を半期ごとに提出を受け、取組状況及び温室効果ガスの排出量等について取りまとめを行いました。年間取りまとめの際、各エネルギーの前年度との比較（様式 2）を各課で行い、今後の取り組みへ向けての課題を探ってもらいました。

5 事務用紙購入量、水道使用量について

(1) 実績値

年 度	事務用紙購入量 (kg)	水道使用量(m ³)
平成 22 年度 (前年度比)	39,679.20 129.11%	86,538 93.87%
平成 23 年度 (前年度比)	59,154.62 49.08%	100,934 16.28%
平成 24 年度 (前年度比)	56,157.17 △5.07%	97,079 △3.82%

(2) 取組状況

平成 24 年度の水道使用量及び事務用紙購入量は、前年度に対して減少しました。主に東日本大震災に伴う活動の減少が理由として考えられます。また、可能な限り両面印刷、ミスコピーの削減や裏面使用など積極的に行っている課もあります。

水道使用量は前年度と比べて 3.82%減少（△3,854 m³）となっています。水道使用料が減少となった施設は 57 施設中 24 施設と半分以下ではありますが、トイレ改修により流水音装置（音姫）を設置したことから、水道使用量が大幅に減少した施設もあり、各課で節約に取り組んでいる結果が出たと思います。

6 課題と今後の取り組みについて

(1) 第二次遠野市地球温暖化対策実行計画の見直し(平成 26 年度予定)

本計画は、二酸化炭素排出量の目標となる基準年度が、東日本大震災前であり、策定時の状況と大きく変化しているため、現状に合わせ実行計画の見直しを行う必要があります。

23 年度変更 (本庁舎、とびあ庁舎、斎場)

24 年度変更 (総合防災センター、あすもあ遠野、文化研究センター)

25 年度変更 (総合食育センター、とおの物語の館、中学校再編)

今年度の状況を踏まえ、25 年度を基準年として実施計画の見直しを検討予定。

(2) 使用エネルギーの削減 (直接的な温室効果ガス排出抑制)

平成 24 年度の温室効果ガス総排出量は、平成 23 年度と比較すると 22.9%の増加 (1,492,872.5 kg-co₂) となっています。使用量が増加しているガソリン、軽油、そして温室効果ガス排出量の大部分を占める電気の削減が課題となっています。

節電対策の徹底も重要ですが、新たな節電アイデアや他の施設の事例研究、各課ごとに目標値を設定するなどの新たな取り組みが必要です。

節電・節約は一時的なものではなく、長期的に継続していかなければなりません。

施設稼働による使用量は、市民の生活環境・利用状況などとも密接に関係し、使用量を削減するための取り組みについては難しい部分もありますが、適正な維持管理を徹底しなければなりません。

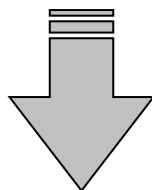
温室効果ガス排出量削減は、職員一人ひとりの意識が重要となります。

計画の推進のため、推進員を通じて周知しながら、今後も職員ポータルへの掲示など取り組みを進めます。

平成 25 年 9 月からの電気料金値上げにより更なる使用量の削減が必要

日常業務、事業活動からの職員一人ひとりの自主的な取り組みとして、下記の項目の徹底を図ります。

職員の意識徹底



**各課推進員の活用
研修会の開催
職員ポータルの活用**

- ・ 年 2 回の推進委員会及び推進員会議の開催
- ・ パソコンの省電力設定やこまめな電源切断、画面の明るさを控えめ調整
- ・ クール及びウォームビズの徹底
- ・ 不必要な場所、時間帯の照明をこまめに消灯する。
- ・ 冷房、暖房は適正な温度設定とする。
- ・ 退庁時は、できるだけ OA 機器、電気製品等のコンセントを抜く。

(3) 事務用紙購入量の削減、水道使用量の削減、ごみの分別の徹底

① 事務用紙購入量の削減

業務の増加に伴い、事務用紙の購入も増えていると思われませんが、心がけと工夫しだいで削減は可能です。

- ・印刷やコピー前の原稿確認及び印刷機等の使用後のリセットや設定の徹底
- ・メールの活用
- ・両面印刷や裏面使用等

② 水道使用量の削減

使用量を削減するためには、節水の徹底、職員一人一人の心がけが効果的です。

- ・水を使用する際は、水量を必要最小限にする。
- ・手洗い、歯磨き等は、水を出したままにしない。
- ・水漏れ点検の定期的な実施等

③ ごみの分別の徹底

平成 27 年 10 月から岩手中部広域行政組合運営の焼却施設の稼働に向けて、可燃ごみの削減が大きな課題であり、全市民で取り組みを強化しなければなりません。

平成 25 年度実施のごみダイエット事業で、もえるごみ減量キャンペーンを展開することから職員全員が率先して市民の模範となるよう分別方法を理解し、正しい分別を徹底して取り組む必要があります。

特に、紙ごみや、プラスチック製容器包装の分別の徹底を図るため、雑紙の分別、プラスチック製容器包装収集箱の設置を行う等、もえるごみの減量の取り組みを強化します。

清養園クリーンセンターでは、もえるごみのうち約 5 割が紙ごみとなっており、紙ごみの資源化を行えばもえるごみは確実に減少します。

ごみ減らしのポイントは 3 つの R

- ・リデュース（減らす）ごみを減らす、ムダ買いを減らす。
- ・リユース（再使用）今あるものをできる限り利用する。
- ・リサイクル（再生利用）不要になったものを原料に戻し再び使用する。

(4) 再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入

クリーンなエネルギーで、枯渇の心配のない再生可能エネルギーは、地球温暖化を防止するために最も効果的であり、国全体で普及推進に取り組んでいます。

再生可能エネルギー設備の導入については、未利用資源の有効活用、地域の特性や資源を生かした遠野型エネルギーの地産地消、遠野らしさのこだわり、災害の防災対策等を意識しながら検討を進めます。

各課においては、備品や設備の導入時には、進んで省エネルギー効果の高いものを導入します。

地球温暖化対策実行計画推進組織図

